

## まとめ



## 現代神学の諸潮流

- エコロジーの神学
- ラテンアメリカ解放の神学
- 黒人の神学
- フェミニスト神学
- 終末論
- 宗教の神学



## 神学とコンテキスト

- <誰が>
  - <どこで>
  - <何のために>
  - <どのような>
- } 神学を必要とするのか。



## 伝統的神学の再検討

- 欧米の伝統的神学は「普遍的」であることに価値を置いてきた。
- しかし、それは本当に普遍的なものだったのだろうか？



## 西欧神学の相対化

- 一つの文化 → 西欧文化
- 一つの人種 → 白人
- 一つの性 → 男性
- 一つの階級 → 支配階級
- 一つの宗教 → キリスト教
- 一つの種 → ホモ・サピエンス



## 多元的な価値観の中での模索

- 世俗化、近代化、グローバリゼーション
  - 社会・世界の変化と宗教の変化の相関関係
    - 21世紀の課題としての「原理主義」
  - 文明と文化の対立
    - 文明的普遍主義と文化的個別主義の衝突
- 相対性と絶対性の相克
  - 相対性: 人間が生み出したあらゆる価値、言説は相対的なものである。
  - 多元性の中には「不寛容」「悪」が含まれている。
  - 「宗教的多元性」「文化相対主義」等、相対性の氾濫はどのように平衡状態へ至るのか。



## リアリティの認識

- 様々な神学的思索と実践が前提としているリアリティをどのように共有することができるのか。
  - 生命あるものの「うめき」
  - 解放の神学が前提とする「貧しさ」
  - 黒人や女性の「苦悩」
  - 宗教と宗教の間の「軋轢」「緊張」

## 情報化社会のリアリティ感覚

- テレプレゼンス: 日常世界から遠く離れた場所や時間を身体的に経験すること。
  - 現代の例: テレフォン、テレビジョン、ラジオ、ビデオ、携帯電話、バーチャル・リアリティ
- 宗教は太古の時代から、テレプレゼンスを重要なテーマとして扱ってきた。
  - 例: 日常世界と超越的世界の交流。死者と生者の交流。
- IT革命がもたらすリアリティ感覚の変容
  - インターネット、携帯電話、...

## 神の国のリアリティ

- イエスによる「神の国」のたとえ
  - 「たとえを用いずには語ることはなかった」(マルコ 4:34)
  - 誰にでも理解できる日常的な素材から構成されていた。
- リアルとバーチャルとの二者択一的な問いを拒絶する
  - 熱心党(政治的な「神の国」:リアル志向)とクムラン教団(超自然的な「神の国」:バーチャル志向)の比較
  - リアルとバーチャルの間の往還運動の中で、新しいリアリティを紡ぎ出していく。